

令和5年度第1回伊勢市市民公益活動促進委員会 議事録

日 時：令和5年7月26日（水）10時00分～11時30分

場 所：オンライン開催

出席委員：

委員長	池山 敦 氏	（皇学館大学 教育開発センター准教授）
副委員長	藤岡 喜美子 氏	（（公社）日本サードセクター経営者協会東海支部長）
	秋山 則子 氏	（NPO 法人三重みなみ子どもネットワーク 理事長）
	中川 眞由美 氏	（明倫地区まちづくり協議会 会長）
	中森 忠司 氏	（伊勢市社会福祉協議会 地域福祉課 課長）
	江崎 明裕 氏	（伊勢商工会議所 企画推進室 課長）
	日置 純子	（伊勢市環境生活部 市民交流課 副参事兼男女共同 参画係長）

【いせ市民活動センター指定管理者】

特定非営利活動法人 いせコンビニネット

増川 尚男 （事務局長）

西川 恒夫 （いせ市民活動センター長）

浦田 宗昭 （いせ市民活動センター企画部長）

【事務局】

小林 進 （市民交流課 課長）

上村 静香 （市民交流課 主幹兼市民交流係長）

堀口 瑛子 （市民交流課 市民交流係）

1. 委員長、副委員長の選任について

委員長 池山氏、副委員長 藤岡氏となった。

2. 令和4年度のいせ市民活動センターの管理運営状況について

※（委）＝委員 （指）＝指定管理者 （市）＝伊勢市

（指）資料（事業報告書）に沿って令和4年度の管理運営状況について説明。

（委）専門相談について、NPO法人（中間支援）から「助成金応募先の紹介及び広報の協力」について相談があったとのことであるが、どのような内容のものだったのか。

（指）中間支援団体であるNPO法人から、助成金交付団体を募集しているため、伊勢市で応募されるような団体はあるかと相談があった。そのため、いくつかの団体に紹介をし、実際にある団体が応募したと聞いている。

- (委) いせ市民活動センターの登録を取り消した団体が9団体あるということだが、その要因としてコロナ禍の活動自粛から復活が難しいなどがあつたか。
- (指) 具体的に理由をあげると、「活動団体の中心になっている方が活動できなくなり、他の目的を同じくする団体に吸収されたため」「参加者が少なくなったため」「目的をもって団体を結成したが目的を達成したため」などがある。また、約2年間連絡がとれない団体については登録抹消させていただいている。
- (委) 地域の中でも、活動が2、3年空いてしまい、どうしたらいいか分からず躊躇してしまう傾向がみられるが、みなさん悩みながら活動を再開してもらっている。
- (委) コロナ禍があけて今後自主事業を再開していくときに、財源をどうしていくか。
- (指) 市からの指定管理料の中で、センター事業費として予算取りをし、そこから支出している。
- (指) センター事業費だけでは不足するため、企業に協賛を依頼させていただいている。
- (委) 例えば、収益事業などもできるのか。
- (指) 収益事業はやっていない。チャリティーの募金のためのイベントは行っている。
- (委) 以前チラシコンテストにまちづくり協議会として応募したが、そのような活動や、なんでも相談など、まちづくり協議会としてもいせ市民活動センターとのつながりを深めていきたいと思っている。現在、いせ市民活動センターは行事の会場として使わせていただいたりしているが、その他具体的にどのような活動でつながっていけるのか分からない。
貸館の支払いをキャッシュレスでできると記載されていたが、個人ではキャッシュレス決済も使えるが、団体としては使うのは難しいと思う。
- (指) 地域向けのチラシコンテストは現在コロナ禍で中止しているが、NPO等が対象のチラ1グランプリは開催している。
また、まちづくり協議会であれば、対象を限定しない活動をしていけば、いせ市民活動センターへの登録が可能。なんでも相談は登録していなくても利用していただける。
- (委) 収支決算書の水道光熱費に占める電気代の割合はどれくらいか。

- (市) 電気料金は 3,712,146 円で、水道光熱費の約 9 割を占める。
電気料金の値上がり分について、伊勢市役所のルールに則り、当初の予算額に 120% をかけた額を、実際にかかった電気料金から引いた額 (472,146 円) を補てんした。
つまり、20% は指定管理者に負担していただいている。
水道は特に金額は上がっていない。
- (委) 令和 4 年度は赤字、令和 5 年度も引き続き電気代が下がらず、センター事業費もコロナ禍があけて増えてくると思われる。このままの予算執行でいくと、赤字幅が増えてくると思われるが、指定管理者としてはどのように考えているか。
- (指) 令和 5 年度の予算計画では約 60 万円赤字であり、この分はいせコンビニネット本体の予算から補てんする予定である。
市の電気料金の補てんについて、指定管理者 20% 負担というところを 0% にしてほしいと要望しているところである。
- (委) 伊勢行政チャンネルにて発信をされたとのことだが、SNS も良いが動画を活用するのはとても良いことであるため、このチャンネルやその他動画での発信について活用されると良い。
オンラインでの交流会について、オンラインは距離の壁がとれるため、コロナ禍があけても活用されると良い。
いせ市民活動フェスティバルについて、4 年ぶりに開催されて良かった。利益を出すことも大事だが、同時にボランティア活動も大事。お金ではないつながりはコミュニケーション能力を上げるため、全ての人にボランティア活動を経験してもらいたい。改めて、ボランティアの意義を捉えてもらえると良い。
同フェスティバルでの SDGs の取組コーナーについて、参加者から寄せられた取組事例には具体的にどのようなものがあったか。また、そういったものを拾っていき、みなさんに広めていくと良い。
リユース PC の寄贈など、いろんな応援の仕組みがあると思うが、一般社団・財団法人が対象にならないことがある。自分たちの利益のために動くと思われて、非営利でやっている法人もあるのに差別されることがある。そういったことについて、分かっている範囲で教えてもらいたい。
- (指) PC 寄贈について、Microsoft 社の規定により NPO 法人に限定されている。私たちとしては一般社団・財団法人や任意団体にも寄贈したいという思いが強いため、三重県の地域版の寄贈に関しては、任意団体も支援できるよう仕組みを考えている。また、Microsoft 社へ対象を広げてもらうよう依頼しているところである。
- (委) 全国的には特定非営利活動法人向けの支援が多い傾向があるため、自治体レベルの市

民活動センターでは一般社団・財団法人や任意団体にも支援をしていただきたい。

- (指) 市民活動フェスティバルでの SDGs の取組については、皇學館大学の学生と連携し、参加団体が SDGs のどの目標に属しているのか仕分けし、出展ブースに番号を貼って、意識づけに努めた。
- また、SDGs の取組コーナーでは、来場者が普段行っている取組を付箋に書いてもらった。ごみ問題や電気など、私たちが考えていた以上に多くの方が取り組まれており驚いた。その感想をまとめたものについては、登録団体にメールで配信した。
- (委) とても良い取組だと思う。いせ市民活動センターとしてそういう個人の取組を発信して、企業や行政と協働して、社会全体の取組につながっていくと思う。

3. その他事項

- (1) 市の取組（地域を支える人材の確保）について
- (市) 下記取組について報告。
- ・高校生いせミライプロジェクト
 - ・地域における意見交換会
 - ・市職員を対象とした研修会等
 - ・企業等の地域活動への参加促進
- (市) 市職員を対象とした研修会について話をしたが、地域の活動、ボランティア活動、部活動など、活動する時間を少しでも設けようという意識を持ちながら、地域に関わっていきましょうという話をした。
- (委) 企業等の地域活動への参加促進で紹介してもらったが、ボランティアセンターとして、個人や団体がコロナ禍で活動できない間に、伊勢商工会議所等を通じて市内の企業に公益的な活動の呼びかけを行った。その結果、去年 77 社から活動をされたいというお声をいただいた。
- 地域の活動へ参加していただくきっかけづくりについては、いせ市民活動センターとも一緒になって取り組んでいきたい。
- (委) 社会福祉協議会とのつながりの中で企業から連携の話をもらえると、視界が広がるため、ありがたい。
- まちづくり協議会立ち上げ当時は、退職された人の次の活躍の場として、その人たちの力を頼りにしていたところがあったが、働く人が増えて、ボランティアの人を確保するのが難しい。まちづくり協議会でも給与の出る事務局と、ボランティアで活動する人、市職員でも仕事として参加する人と、プライベートでボランティアとして参加する人がいる。有償ボランティアなども言われているが、今ボランティアの過渡期な

のではないかと思っている。

(委) 65歳定年ということもあり、ボランティアに参加してもらえる層が狭くなってきているという話は様々なところであがってきている。ボランティアと仕事とどう棲み分けていくか難しい。

(委) 色々な年齢層で意識のある方は多いはずだが、どんなことなのかどんな活動があるのか問い合わせるまで関わるというほどではないのだと思われる。そのため、こういうことを手伝ってほしい、一緒に活動してみようということを発信し続けることで、きっかけをつくっていく。

また、組織に関わっていくことを敬遠される方は多いと思うが、これぐらいならできるといふきっかけがあると良い。そういった、様々な世代への発信ネットワークを持つと良いのではないか。

(委) 稼ぎ仕事の「米仕事」と、地域に貢献する「花仕事」があり、昔は自然と両立させていたが、戦後、花仕事は行政がすることという意識になっていった。職員への研修会にて、今からまた米仕事と花仕事を意識づけていこうと話をしている。

地域にもタイミングや場所を見極めながら広めていきたい。

(2) いせ市民活動センターの場所選定について

(市) 下記のとおり報告。

- ・現在のいせ市民活動センターの南館はそのまま活用し、北館は1階を今まで通り貸館として使い、2階を郷土資料館とする方向で計画している。
- ・2階は会議室も含めて全て郷土資料館となるため、1階に会議スペースをつくりたいと考えている。

以上